

宮城県感染症発生動向調査情報(第28週)

宮城県【平成26年07月17日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

— 2014.7.7 ~ 7.13 ・ 第28週 —

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙台市		宮 城 県 (含む仙台市)				
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第25週	第26週	第27週	第28週
水痘	1 0.20	2 0.20	1 0.20		3 1.00	3 0.60	1 0.50	8 0.31	19 0.33	1,228	○→	○→	○→	レ
流行性耳下腺炎		1 0.10	1 0.20		3 1.00			15 0.58	20 0.34	356	→	→	→	
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	25 5.00	27 2.70	7 1.40	14 7.00	20 6.67	13 2.60	1 0.50	160 6.15	267 4.60	13,180	◎→	◎→	◎→	◎
手足口病		8 0.80			2 0.67	2 0.20	1 0.50	11 0.42	23 0.40	85	→	→	→	
伝染性紅斑	14 2.80	18 1.80	14 2.80	8 4.00	10 3.33	28 5.60		35 1.35	127 2.19	1,425	◎→	◎→	◎→	◎
突発性発しん	7 1.40	7 0.70	7 1.40	3 1.50	2 0.67	5 1.00	2 1.00	20 0.77	53 0.91	1,056	○→	○→	◎→	◎
ヘルパンギーナ	2 0.40	5 0.50	1 0.20	12 6.00	2 0.67	1 0.20		10 0.38	33 0.57	82	→	→	→	○
インフルエンザ	1 0.13							1 0.01	28,906		→	→	→	
咽頭結膜熱		12 1.20		2 1.00	1 0.33	2 0.40		5 0.19	22 0.38	410	○→	○→	○→	レ
流行性角結膜炎		2 0.67						2 0.17	82		→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9 1.80	8 0.80	3 0.60	2 1.00	6 2.00	9 1.80		48 1.85	85 1.47	3,778	◎→	◎→	◎→	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)	1 1.00							1 0.08	11		→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎							5 5.00	1 0.20	6 0.50	241	→	→	→	
クラミア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→	
RSウイルス感染症		3 0.30	1 0.20				1 0.50	3 0.12	8 0.14	347	→	→	→	
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		6	2							◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向			
	川崎病										【週報の詳細】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.the.pref.miyagi.jp/~kansen-center/			
	不明発疹症							10						
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※									52				

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

今週の全数報告疾病

- 1類感染症: 報告なし
2類感染症: 結核
3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)
4類感染症: 報告なし
5類感染症: 報告なし
- ※男児、女兒は6歳未満
- 仙南管内 女性1名
塩釜管内 女性1名
気仙沼管内 女性1名
仙台管内 男性1名、女性1名
塩釜管内 女性1名
大崎管内 女性1名
腸管出血性大腸菌感染症(O121) 女性1名
気仙沼管内 女性1名

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

今週の感染症のコメント

— 宮城県感染症対策委員会情報解析部会 —

- 【伝染性紅斑】
大崎、栗原、登米、石巻管内で警報継続中。
仙南管内で警報値を超えた。
【ヘルパンギーナ】
栗原管内で警報値を超えた。

【病原体検出情報】

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第26週採取分 (6.23～6.29)	第27週採取分 (6.30～7.6)	第28週採取分 (7.7～7.13)
バラインフルエンザウイルス1型	1件	0件	0件
バラインフルエンザウイルス2型	1件	0件	0件
バラインフルエンザウイルス3型	3件	2件	0件
ヒトメタニューモウイルス	9件	4件	1件
RSウイルス	1件	0件	1件
サイトメガロウイルス	1件	1件	0件

【ヘルパンギーナ】

夏期に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表的疾患である。発熱と水疱性発疹が口腔粘膜にみられる。原因はエンテロウイルス属のA群コクサッキーウイルスが多い。宮城県では例年第28週から流行がみられ、今週、栗原管内で患者報告数が警報値を超えたことから注意を要する。

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	0～4歳 (%)	5～9歳 (%)	10～14歳 (%)	15～19歳 (%)	20～29歳 (%)	30～39歳 (%)	40～49歳 (%)	50～59歳 (%)	60～69歳 (%)	70～79歳 (%)	80歳～ (%)	総数 (人)
2014年 第26週	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	4
第27週	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
第28週	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	1

インフルエンザ定点

インフルエンザ定点とは、小児科定点と内科定点を合わせたもので、県全体で93定点(県:51、仙台市:42)となっています。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第26週) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第17週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(3.33)、鹿児島県(0.48)、岩手県(0.19)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は7例と前週と比較して減少し、5都県から報告があった。RSウイルス感染症: 報告数は247例と減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約79%を占めている。咽頭結膜熱: 定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。山形県(1.83)、富山県(1.69)、北海道(1.66)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 定点当たり報告数は第23週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。福岡県(4.18)、新潟県(3.97)、山形県(3.93)が多い。感染性胃腸炎: 定点当たり報告数は第22週以降減少が続いている。大分県(8.86)、愛媛県(8.84)、宮崎県(8.00)が多い。水痘: 定点当たり報告数は3週連続で減少した。福井県(1.86)、長野県(1.83)、新潟県(1.67)が多い。手足口病: 定点当たり報告数は第20週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は宮崎県(4.94)、大分県(4.06)、福岡県(2.29)である。百日咳: 定点当たり報告数は増加した。沖縄県(0.12)、福井県(0.09)、福岡県(0.08)が多い。ヘルパンギーナ: 定点当たり報告数は第19週以降増加が続いている。鳥取県(6.42)、宮崎県(4.47)、山口県(4.25)が多い。マイコプラズマ肺炎: 定点当たり報告数は横ばいであった。富山県(1.20)、青森県(1.17)、福島県(1.14)が多い。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る): 定点当たり報告数は第21週以降減少が続いている。26都道府県から54例報告があり、年齢別では0歳(11例)、1～4歳(31例)、5～9歳(12例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数

【HIV感染者、AIDS患者累積報告数】 平成26年3月30日現在

	HIV感染者	AIDS患者
宮城県	111(2)	76(0)
全国	16,026(243)	7,277(89)

()内は平成25年12月30日～平成26年3月30日分の報告数である。
API-Net(エイズ情報予防ネット)より